

古今異義語 確認テスト（古文単語） 解答・解説

■ 解答・解説

問1 イ。「あさまし」は、よくも悪くも予想外のことに「驚きあきれる」が中心義。ここは立派さに目をみはる場面で、「驚きあきれるほどだ」。現代語の「あさましい（いやしい・みつともない）」とは異なる。

問2 かわいい・愛らしい。小さく可憐なものへの慈愛の情を表す。現代語の「美しい」ではない。

問3 古語「うつくし」は、小さいものへの「かわいい・愛らしい」という慈しみの情を表すのに対し、現代語「美しい」は、姿・形・色などの整った見た目の良さを広く言う。対象も中心となる感情も異なる。

問4 「有り難し」と書き、「(めったになく) 存在しにくい→めったにない・珍しい」の意。そこから「貴重だ」「もったいない」の気持ちにつながる。感謝の意の「ありがたい」は後世の用法。

問5 はっと気づく・目を覚ます。「びっくりする」の意もあるが、基本は「ふと気がつく」。ここは両音で目を覚ます場面。

問6 夜が更けて、雨の音にふと目を覚まして、あたりを見まわす。

問7 イ。「はづかし」は、相手が立派すぎて、対するこちらが気おくれするさま。「(相手が) 立派だ・こちらが恥ずかしくなるほどだ」。現代語の「恥ずかしい」より範囲が広い。

問8 終止形「なつかし」。心がひかれる・親しみを感じる。過去を慕う現代語の「なつかしい」と違い、対象に引き寄せられる気持ち全般を表す。

問9 (人前に出るのが) つらい・きまりが悪い。また「優美だ・けなげだ」の意もある。ここは仕えることの気苦労を言い「つらい」。動詞「痩す」に由来し、身がやせ細る思いが原義。

問10 古語「やさし」は、人前で身のやせ細る思い、すなわち「つらい・きまりが悪い」、また「優美だ・けなげだ」の意であるのに対し、現代語「やさしい」は、他人に対する思いやりや、物事のたやすさを表す。原義からの隔たりが大きい。

問11 丁寧に・心をこめて。また人間関係では「親密に」。現代語「ねんごろ(男女が深い仲)」に偏る前の、広く「念入り・誠実」の意。

問12 主人は、客人を丁寧に(心をこめて)もてなして、一晩中語り合う。

問13 不吉だ・縁起が悪い。「忌む」を重ねた語で、避けたいほど縁起が悪いさま。現代語「いまいまいしい(腹立たしい)」とは別。

問14 終止形「心づきなし」。気にくわない・好感がもてない。心が向かない(=心付かない)ことから、対象に親しみを感じられないさまを言う。

問15 ウ。「かなし」は、身にしみていとおしい・かわいくてたまらない、が中心。「悲し」とも書くが古文では「愛し」の情が基本。ここは親なき子をいとおしむ場面。

問16 親のない我が身を、たいそういとおしいと思って、何かにつけて大切に世話をする。

問17 興ざめだ・殺風景だ。期待にそぐわず白けるさま。「すさまじきもの」は興ざめなもの代表例として説話・随筆に多い。現代語「すさまじい（程度がはなはだしい）」とは異なる。

問18 古語「すさまじ」は、期待にそぐわず「興ざめだ・殺風景だ」と感じる気持ちを表すのに対し、現代語「すさまじい」は、勢いや程度が並外れて激しいさまを表す。古語が「白ける」マイナス評価なのに対し、現代語は程度の甚だしさを言う点で異なる。

問19 終止形「わりなし」。道理に合わない・どうしようもない・つらい。「理（ことわり）無し」が原義で、筋の通らなさから、せつなさ・むやみさまで広く表す。

問20 （身分の低い者などが）目が覚めるほど立派だ・意外にすぐれている。一方で、目に余って「不愉快だ」の意にもなる。ここは下臈が歌を巧みに詠む意外さへの感嘆で「立派だ」。

問21 良い意味では、身分の低い者などが「目が覚めるほど立派だ・すぐれている」と感嘆する意。悪い意味では、目に余って「不愉快だ・気にくわない」とけなす意。どちらも「目が覚める」ほど強く心を動かされる点は共通し、その方向が賞賛か非難かで分かれる。

問22 残念だ・くやしい・物足りない。「口惜し」と書く。期待外れで心残りなさま。

問23 形は現代語と同じだが、古語では意味が異なる語。例えば「うつくし」は古語で「かわいい」を表す。(38字)
